

瑞宝双光章

岩手・宮城内陸地震では救援活動に尽力



佐藤 敬一さん

(田の浜・66歳)

(元宮古地区広域行政組合消防監)

佐藤さんは、昭和43年、山田町常備消防部に奉職し、平成21年に宮古地区広域行政組合消防監として退職されるまでの41年間、宮古地区の消防・防災活動に尽くされました。この間、田老分署長や山田消防署長などの要職を歴任し、宮古地区各消防機関の円滑な任務遂行に貢献

されました。また、中でも平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震では、宮古地区広域行政組合消防本部消防長として隊員をいち早く被災地に派遣。被災地の情報収集に当たらせるなどの初動活動に尽力されました。

佐藤さんは現在、在職時代の経験を生かし地域防災アドバイザーや市町村災害対応支援アドバイザーとして全国で講演活動などを行っています。「受章は、支えてくれた皆さんと家族のおかげ。深く感謝しています。これからは、地元と積極的に関わり恩返しをしたいと思います」と喜びを話していました。

春の叙勲

長年の功績に光

4月29日付けの春の叙勲において、本町の3人が多大な功績を認められ受章されました。皆さんの長年の功労を歴史とともに紹介します。

瑞宝単光章

数々の災害現場で活動し地域に貢献



内舘 市幸さん

(長崎・77歳)

(元山田町消防団副団長)

内舘さんは、昭和33年に町消防団第6分団に入団し、平成5年に同分団長、平成10年からは町消防団本部分団の副分団長、平成12年に同分団長。平成20年から町消防団副団長として、平成26年に退団されるまで57年の長きに渡り、地域の消防活動に尽くされました。

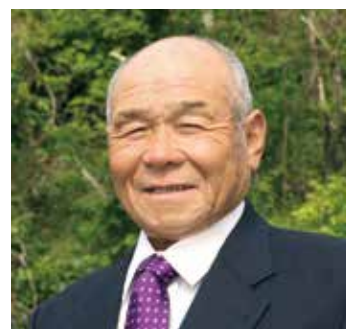
昭和51年に発生した藤畑から十二神山まで延焼した山林火災では、危険を伴う夜間の消火活動に従事。東日本大震災では長期間に渡る消防活動に尽力するなど、消防人として大きな役割を果たされました。

内舘さんは消防生活を振り返り「若手の消防団員が将来に渡って安全で事故無く消防活動できるよう、育成に力を注いでいた」と話します。

「受章は皆さんからの支えと家族の協力のおかげ。心からお礼申し上げます。なお一層地域のために精進します」と喜びと感謝の気持ちを話していました。

瑞宝双光章

東日本大震災では消防団を陣頭指揮



菊地 民雄さん

(田の浜・77歳)

(元山田町消防団長)

菊地さんは、昭和30年に町消防団第2分団に入団し、昭和57年に同分団長、平成6年に町消防団副団長、平成19年から町消防団長として、平成26年に退団されるまで60年の長きに渡り、地域の消防活動に尽くされました。

特に東日本大震災では、町消防団長として全分団の先頭に立って指揮し、市街地での大規模火災に対して火災防御を行い近隣地区への延焼を最小限に留めるなど、多大な貢献をされました。菊地さんは「活動に当たって各分団の管轄をそれぞれ守るように指示しました。結果的には各分団が核となり地域の復旧に力を発揮したと思います」と、振り返ります。

受章については、「身に余る光栄です。これまで半纏を着続けられたのも皆さんに支えられていたからこそ。これからも町の皆さんや消防団のためにまい進してまいります」と喜びと今後の抱負を話していました。